

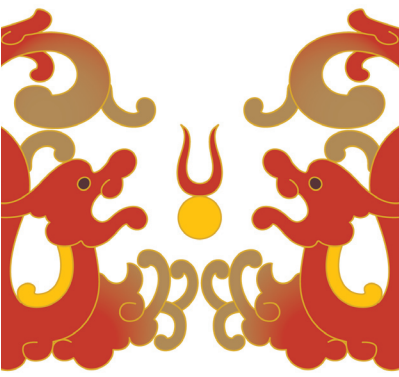
3 章 中国の伝統文様

動物文様



龍文 花瓶 中心部
CD 3_017

景泰藍などの時代の龍は、翼や脚が図のように天界を表す雲になっているものが多く見受けられます。



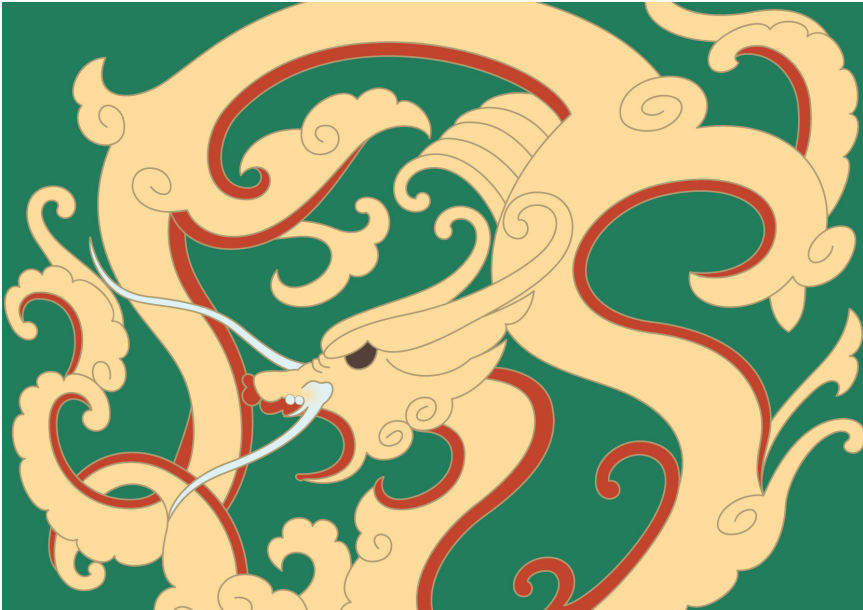
草龍文 盒（ごう）中心部
CD 3_018

文献では龍の翼が、時代を下って焰に変化したと伝えています。この文様は、焰の神聖さを龍の姿にたとえて表現しています。



祥龍蓮文 罐（かん）中心部
CD 3_019

この造形の魅力は龍と蓮を唐草文で、無理なく合体させた点にあり、見るものの共感を誘います。



団龍図 帽筒 中心部
CD 3_021

「団龍」は円形に表現した龍の文様です。表現に抑制が効いているのは、ほかの要素が繁雑なためです。



草龍文 罐（かん）中心部
CD 3_020

この草龍文は宝珠を蓮に代用させ、しかも焰に模しています。素材の背景がよく解釈されている例です。



龍文 方錐瓶 部分
CD 3_022

鱗のある龍を咬龍（こうりゅう）といいます。不気味に見えますが、反面ユーモラスにも描かれています。



草龍 円盤 中心部
CD 3_023

写実よりすごみのある龍（昇り龍、降り龍）を意匠化しようとしたのではないのでしょうか。



四神図 墩 青龍部
CD 3_024

「四神」を描いた模様のなかの龍です。「四神」は「青龍（東／青）・白虎（西／白）・朱雀（南／赤）・玄武（北／黒、亀と蛇の合体）」です。

中国でもっとも重要な意義をもつ「龍」の文様

龍に関する数々の説話は、中国四千年の歴史のなかで培われ、編み上げられ今も色濃くいきています。龍は中国の人々の伝統意識のなかで、神聖・吉祥・慶福のシンボルとして敬愛をもって支持され、開運や魔除けを表現する図案として年中行事のなかに用いられています。



皇帝のシンボルとしてあらゆる動物を超越する「龍」

中国では、秦の始皇帝を「祖龍」、漢の高祖の容貌を「龍顔」、皇帝の身体を「龍体」といいます。このように龍は高貴の象徴とされ、庶民が龍の文様を使うことは許されませんでした。しかし、皇帝が使用する龍の図案は五本指で描かれ、庶民が龍を描く場合は、四本指や三本指にしました。その結果、龍文様がひろがったといわれています。

